

令和4年度
学校関係者評価報告書

令和5年3月20日

学校法人すみれ学園

四国医療工学専門学校

1.学校関係者評価委員会

委員

- 村上 武 委員長 (高知大学医学部附属病院 医療技術部 副部長)
北岡 加恵 委員 (株式会社 Yell Pharmacy 人財開発課長)
松本 江身子 委員 (本校在校生保護者)
(欠席) 米本 聖哲 委員 (医療法人 緑風会 海里マリン病院 事務次長)
(欠席) 押岡 智雅 委員 (学校法人 みかづき学園 みかづき幼稚園 園長)

学校

内田 信式 (校長)

清岡 鈴子 (医療情報学科長)

吉田 拓矢 (臨床工学学科長)

赤嶺 佑一 (広報部職員)

岩切 里奈 (事務課職員)

(計 8 名)

2.学校関係者評価の実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたり、学校関係者評価委員に本校作成の自己評価報告書の結果を説明し、各委員から評価結果についてのご意見をいただいた。各委員からいただいたご意見は、本報告書の中に取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に生かし、教育の向上に努めることとする。また本報告書はホームページにて評価結果を公表する。

3.学校関係者評価委員会 開催日時

令和 5 年 3 月 9 日 (木曜日) 10 時 00 分～11 時 00 分 本校 5 階基礎医学実習室

1.開 会

2.校長挨拶

3.出席者紹介

4.自己評価報告書説明

5.質疑応答

自己評価報告書について、質疑応答や改善点の提案等について意見交換 (別紙参照)

6.総 括

7.閉 会

別紙

令和4年度 学校関係者評価委員会 質疑応答・意見内容

発言者	質疑応答・意見内容
欠席者1（書面）	各評価において、いずれもA判定であり、また自己評価も適切とあると考えます。昨年度からの改善点もあり、今後の課題・改善方策等に基づいて進めていかれることを期待しております。
欠席者2（書面）	自己評価の達成状況について、適正であると判断します。昨年度からの改善箇所も見られ、積極的な取り組みが学校全体で行われていることがわかります。
発言1	コロナ等でおそらく登校ができなかった方々もおられるかと思いますが、そういった方々に対して、オンラインを活用するなど、教育に差が出ないようなフォローは学校としてされていたのでしょうか。
吉田学科長	今年度のコロナの状況に関しまして、休校などをせずに対面授業を問題なくできておりました。数名コロナ陽性になった学生もおりますが、一週間ぐらいの欠席ですので、欠席期間としては通常のインフルエンザと同じような扱いで考えておりましたので、オンライン授業というような対応を取りませんでした。もちろん、学生とはこまめに連絡を取れるようにして、LINEなど学生がよく使う連絡ツールを活用して、講義資料や模擬試験問題などの電子ファイルを送信するなどして、休みの間も自己学習のサポートできる体制を整えておりました。
発言2	私自身も大学におり、様々な教育に関わっていますが、今、コロナは平時に戻りつつあり、今後はどうなるかを議論しています。それも踏まえた上で、パンデミックなどが起こった時に学生の教育をどうするかといった議論は今までずっとあり、この場でご質問させていただきました。
吉田学科長	実際にオンラインがかなり普及して、ZOOMを使うことも一般化しています。また学生の自宅のインターネット環境も重要です。こちらについては、学生アンケートを取り、自宅のインターネットが使い放題でない学生に対して、本校からWi-Fiルータを貸与

	<p>するなどの体制を取っております。万が一、学校を閉鎖するようなことになるのであれば、オンライン授業もすぐに対応できるようにしております。</p>
<p>発言 3</p>	<p>評価が×になっている項目がいくつかあるかと思います。私も卒業生ですので理解はありますが、学校の特性的にあまり該当しないような項目が×なのは仕方がないかと思います。この評価項目は学校の中で決めている項目なのか、もしくは教育施設で統一した様式で、統一されたチェックシートのようなものなのでしょうか。</p>
<p>吉田学科長</p>	<p>この点検項目は前校長から引き継いできたもので、もともとは他県で作成されたフォーマットを基にしていると伺っております。我々も点検項目の見直しも含めて検討しようとしておりますが、残すべき項目と削っていい項目の判断を憂慮しており、項目の見直し自体が進んでいないというのが事実です。また、消す必要があるのか、改善することがきるのかなども議論する必要があります。もし残せるのであれば、今後、我々が改善していくポイントとなりますので、今のところ項目をそのままにさせていただいている次第です。</p>
<p>発言 4</p>	<p>学校の方で作られている内容ということで理解しました。私も複数年で見させていただいており、大変よいことをされており、母校ですからいろいろ理解しております。×というのが、例えば、該当しないのであれば別の「非該当」などの項目があってもいいと思いますし、ここは惜しいなと思うところもたくさんあります。×を少なくしていく方向なのか、もしくは項目自体を検討するかといった、調整がいるのかなと思った次第です。</p>
<p>発言 5</p>	<p>5-2-C 高度な教育の部分が、昨年少しお話をさせていただきましたが、専門学校なので大学への編入とか、進学の話ではないかと思えます。大学でも臨床工学のためではないが、臨床工学の方々に近い領域の大学院を 2 年前に作り、この春に初めて修了生が出ます。いきなり大学院というのはなかなか難しく、ハードルもあるのかと思いますが、全く入口がないわけではありません。もし、なにか高度な教育というと大学や大学院も関連してくると思いいコメントさせていただきました。</p>

吉田学科長	<p>こちらは今後、進めていきたいところの一つです。専門学校を卒業したとき、学士でないことから次の修士には進めないと思われる方もいると思います。今後、専門学校を卒業した後に、さらにその上の修士に行くためにこういうことができますよという案内ができればと思っています。個々の大学院でそれぞれ、修士課程に入る要件があるかと思しますので、本校を卒業した後、何をすればその先の進路の道があるのかということを示していければと思っています。またご協力いただければと思います。</p>
発言 6	<p>もしお時間いただけるようであれば、そういった進路の方向があるということをお話しすることもできます。是非お声がけいただけたらと思います。こちらの大学院の修了生 10 名のうち半分以上が臨床工学技士です。それぞれが研究に慣れないなか、頑張っています。今お話しされた通り、必ずしも学士を取らないと大学院にいけないわけではなく、私自身も御校を卒業して業務を 10 年ぐらいました。その後工学の修士課程に行き、また MBA を取りました。今は九州大学の博士課程に行っています。そういう道もありますので、是非若い方々にもそういうことを理解してもらえたらよいのかなと思いました。</p>
発言 7	<p>授業の内容が今年から変わるようですが、私の子供にはどのように関係しますか。</p>
吉田学科長	<p>現在、ご入学されている学生に関しましては、旧カリキュラムが適応されます。新カリキュラムが適用されるのは、令和 5 年度の入学生からになります。在校生は、旧カリキュラムで卒業までいき、国家試験をご受験していただくことになります。国家試験の内容も、旧カリキュラムに合わせたものになり、これまでに取得された臨床工学技士と同じ扱いになります。よって卒業して国家資格を取られた後に、臨床工学技士の新しく追加された業務をする時には、告示研修を受けないといけません。すでに国家資格を取得された他の臨床工学技士と同じように研修を受けていただくことになります。</p>
発言 8	<p>それを受けると今後入学される学年の子と同じということですか。</p>

吉田学科長	はい、同じように新しい業務ができるようになります。
発言 9	医療のことや学校のことを全然わかりませんでした。学校の名前は聞けばわかるが、臨床工学技士という仕事を子供から聞きましたが、それは何をするかを周知できていないかなと思いました。パンフレットは今年から変わったのですか。
吉田学科長	はい、今年も変えております。
発言 9	とても見やすいと思いました。私も手術室や透析室や医療関係の様々な仕事がいいと思っています。このパンフレットはいいなと思いました。私の子どもが病気により学校で倒れたとき、先生方に病院に連れて行っていただき大変助かりました。また勉強などもしっかり教えていただきありがたく思っております。
村上委員長	<p>【総括】 昨年、一昨年と今年も見させていただいて、コロナで大変ななか、実習生の受け入れをさせていただき、担当の先生とご相談させていただきながら、本当にご苦勞をされていることを肌身に感じておりました。今年度も実習生 20 名弱を受け入れさせていただきました。しかし、我々の施設の都合で短期間での実習でご不便をおかけしたり、来ていただいても見ていただける範囲が少なくなったり苦勞をおかけした 2、3 年だったと理解しています。そうしたなか、私も近くで学生を見させていただき、「今の若い者は」と言うスタッフもいますけれども、いいところもたくさんあります。我々が気づかない点や、ベースができている情報の使い方など、いろいろな視点を持っているのが、今の若い世代だと思っています。そういった方々が世に出て私たちの仲間になるわけで、我々の足りないところを補ってくれる人となる可能性を秘めています。</p> <p>また学校自体の評価というところで関わらせていただくことでより社会へ貢献をさせていただけることが、大変うれしく思っています。こういったことが大事なことだと十分理解しています。今回お話を聞いて、苦勞されていることもあり、まだまだこれからもっとよくできる可能性もあるなと思う部分もあると改めて思いました。年 1 回のこういう機会ではなかなかお話はできませんが、委員としてもそうですし、卒業生としては是非、学校には</p>

	<p>関わらせていただきたいと引き続き思っております。何かあれば遠慮なくお声掛けいただき、ご相談させていただければと思います。</p> <p>今日ご出席いただいた方のいろいろな意見を聞いて、私もそうだなと思うことがありました。また、臨床現場側からもできることを考えながら学校側にも提案していきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。また引き続き、どうぞよろしく願いいたします。</p>
--	--